



【概要】鹿児島大学は、「令和2年度 就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」（文科省）を用いて、令和3年度に「世界自然遺産登録の好機を生かし、奄美の「環境文化」を付加価値化する先駆的人材の育成」プログラムを開発・実施した。また、令和4年度は、昨年度の成果を発展・持続させることを目的に、本学の独自事業として「第2期奄美「環境文化」教育プログラム」の開発・実施に着手している。

令和3年度の主な取組み

1. 教育ニーズの把握

地元の行政や事業者等との意見交換により教育ニーズを把握

2. 実施体制の整備

教育プログラムを開発・実施する関係機関との協議の場を設定

【事業実施委員会】

- ・鹿児島大学産学地域共創センター（現：高等教育研究開発センター）
- ・奄美群島振興開発基金 ・奄美大島商工会議所
- ・奄美群島広域事務組合 ・鹿児島労働局（ハローワーク）
- ・鹿児島県大島支庁

【就職・転職支援委員会】【プログラム開発委員会】

3. 教育プログラムの開発

① プログラムの目的・目標の設定

【目的】奄美群島に在住、または、移住予定の社会人を対象に、島・シマ（集落）の地域特性を奄美の「環境文化」という考え方から捉え直し、その価値を高めて新たな仕事を生み出したり、生活に生かすことのできる職業人を支援。

【目標】奄美の「環境文化」を深く理解し、それらに付加価値を与え、地域資源として持続的に利活用するためのマインド、並びに基本的な知識とスキルの獲得。

② プログラムの方法の設定

【方法】3つのコースを設定し、ハイブリッド型の講義形態で実施する。
オンライン講義・討論 + 現地実習（フィールドワーク・ワークショップ）

③ 講師の組織化

大学知と地元知の両方を学ぶために多様な講師陣を組織化する。

【大学の講師】自然科学×人文社会科学

【学外の講師】実務家教員×島の専門家

【島民の講師】集落民×事業者

4. e-learning学習管理システム（eden）の導入

5. 教育プログラムの実施

【開講期間】令和3年9月～令和4年2月（6か月）

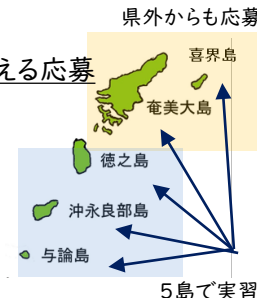
【総時間数】起業家コース80時間／WEBデザインコース70時間／
事業主・行政コース62時間

取組の成果

1. 高い学習ニーズの受け皿になった

- ① 奄美群島12市町村より定員を大幅に超える応募
定員50名+αに対して89名が応募
（平均年齢が39歳、41歳、37歳と若いのが特徴）

コース	定員	応募者	受講者	修了者
起業家コース	20	35	22	15
WEBデザインコース	30	27	32	24
事業主・行政コース	若干名	27	17	11



- ② 当プログラムの継続を望む受講生の割合100%
令和3年度に実施したアンケート結果n=39（回答率79%）

- ③ 第2期生（R4年度）においても定員30名に対して51名の応募

2. 奄美群島の人的ネットワークの形成と事業の創発

① 第1期修了生による緩やかな同窓会組織の設立

同じ島内、及び、島を超えた広域的な人的つながりが醸成された。

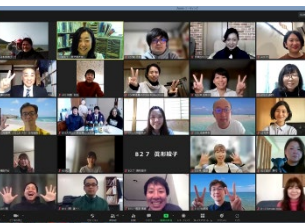
② 修了生同士・修了生と講師による協働形成の始まり

③ 第1期修了生のフォローアップ研修と第2期生との交流 ネットワークを発展させる令和4年度の教育プログラムに結びつく。

- ・第1期修了生の活動や学びを支援するフォローアップ研修を実施予定
- ・第1期生と第2期生の交流機会をオンラインと対面の両方で実施予定

3. 修了生の各方面での活躍

- ・事業の立ち上げ（e.g.あまみ植物園、タンカン栽培農家）
- ・日本国際観光映像祭 広域誘客 日本部門で最優秀作品賞
（奄美群島国立公園 環境文化型 人間と自然の関わり そのものを受け継ぐ）
- ・鹿児島県大島支庁令和3年度「環境文化事業」における連携
- ・奄美市「世界自然遺産活用プラットフォーム」の委員会活動
- ・「加計呂麻島で癒しのひと時とワーケーション」事業の立ち上げ
- ・「幸せな島暮らし研究所」（徳之島）立ち上げと連携事業の開始ほか多数



2022年度 鹿兒島大学 奄美群島島めぐり講演会

住み慣れた土地にも、意外と知らないことがあるものです。時には島の自然や環境についての講演を聞いてみると、ふるさつを見直す機会になるかと思えます。鹿兒島大学は、奄美群島の生物の多様性などを研究し教育に生かすプロジェクトを進めています。その中でわかってきたことを中心に、群島の皆様を紹介する講演会を開くことになりました。多くの方のご参加をお願いいたします。

主催：鹿兒島大学国際島嶼教育研究センター
共催 奄美群島広域事務組合 後援：各町

第19回 与論島 2022年11月26日（土）午後4時～6時半

「奄美で在来カンキツについて考える」 山本雅史（農学部）

「島嶼の豊かな自然環境をドローンで見よう ～スマート農業への利用～」 平 瑞樹（農学部）

第20回 徳之島 2022年12月24日（土）午後1時半～4時

「島のさとうきびと砂糖の話」 坂井教郎（農学部）

「アミノクロウサギによる農作物被害をどう防ぐ？」 高山耕二（農学部）

第21回 奄美大島龍郷町 2023年1月21日（土）午後1時半～3時

「魚は島の宝：生産者と飲食店・宿泊施設の連携を考える」 鳥居享司（水産学部）

第22回 喜界島 2023年2月11日（土）午後1時半～4時

「奄美群島の戦争遺跡を訪ねる」 石田 智子（法文学部）

「地域資源を活かした喜界島の景観づくりを考える」 平 瑞樹（農学部）

第23回 沖永良部島知名町 2023年2月18日（土）午後1時半～4時

「海藻の上に住む小さな動物たち」 小玉将史（水産学部）

「ちょっと怖いが実は面白い寄生虫の話：奄美群島の寄生虫たち」 上野大輔（理学部）

全学プロジェクト・ミッション実現戦略分

国際島嶼教育研究センター（島嶼研）と理工学研究科が主体となり全学プロジェクト・ミッション実現戦略分「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地域創生』の革新的融合モデル」を令和4年度より6年計画で推進しています。

島嶼研が中心となる「多様性保全部会」は学際的な研究を行っており、「陸上植物」、「陸上動物」、「水圏」、「地域研究」の4班で構成され、学内教員44名、特任教授1名、特任研究員2名（令和5年4月着任予定）が参加しています。各班及びプロジェクト全体の目的達成に向け奄美群島を中心に精力的に研究を行っています。

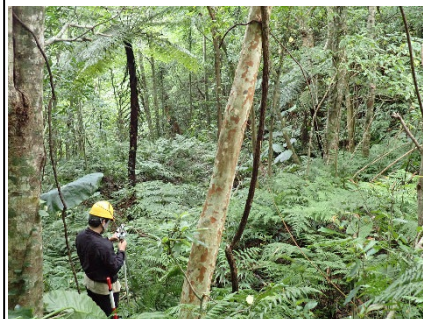


写真1



写真2



写真3



写真4

写真1. 奄美大島での植生調査風景（陸上植物班）

写真2. 奄美大島での鳥類と哺乳類の生息調査風景（陸上動物班）

写真3. 奄美大島河川におけるリュウキュウアユの調査風景（水圏班）

写真4. 島嶼研奄美分室で開催された奄美群島水産業活性化に関する勉強会風景（地域研究班）



植物観察会（喜界島）



奄美分室において鹿児島市開催の研究会に遠隔参加する奄美島民